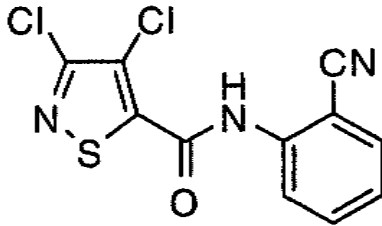


水質汚濁に係る農薬登録基準の設定に関する資料

イソチアニル

I. 評価対象農薬の概要

1. 物質概要

化学名	3, 4-ジクロロ-2'-シアノ-1, 2-チアゾール-5-カルボキシアニリド				
分子式	C ₁₁ H ₅ Cl ₂ N ₃ OS	分子量	298.2	CAS 登録番号 (CAS RN®)	224049-04-1
構造式					

2. 作用機構等

イソチアニルは、イソチアゾールカルボキサミド系の殺菌剤であり、その作用機構は、植物自身が持つ病原菌に対する防御機構を活性化作用（植物病害抵抗性誘導）であると考えられている。（FRAC：P03^{※1}）。

本邦での初回登録は2010年である。

製剤は粒剤及び水和剤があり、適用農作物等は、稲及び野菜である。

原体の輸入量は、61.9t（令和元年度^{※2}）、139.2t（令和2年度^{※2}）、85.9t（令和3年度^{※2}）であった。

※1 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>
<https://www.frac.info/>

※2 年度は農薬年度（前年10月～当該年9月）、出典：農薬要覧-2022-（（一社）日本植物防疫協会）

3. 各種物性等

外観・臭気	白色粉末、わずかな芳香臭 (室温)	土壌吸着係数	$K_{F_{oc}}^{ads} = 500 - 1,600$ (25℃)
融点	193.7～195.1℃ (融点に由来する吸熱ピーク)	オクタノール／水分配係数 生物濃縮性	$\log Pow = 2.96$ (25℃、pH7.2)
沸点	沸点に達する温度以下で熱分解 減圧条件下： 266.0℃ (沸点由来の重量損失を伴う吸熱ピーク) 大気圧条件下： 354℃付近 (気化由来と推定される重量損失を伴う吸熱ピーク) 372℃付近 (分解由来と推定される重量損失を伴う発熱ピーク)		—
蒸気圧	2.4×10^{-7} Pa (25℃)	密度	1.1 g/cm ³ (20℃)
加水分解性	半減期 1年以上 (50℃、pH4) 2.1－2.5 日 (50℃、pH7) 1.7－1.8 日 (50℃、pH9) 9.4 日 (40℃、pH7) 7.3 日 (40℃、pH9) 60.8－71.4 日 (25℃、pH7) 53.7－55.0 日 (25℃、pH9)	水溶解度	0.5 mg/L (20℃、純水 pH7.0)
水中光分解性	半減期 2.2 日 (東京春季太陽光換算 7.9 日) (滅菌蒸留水、pH6.5、25℃、27.95 W/m ² 、300－400 nm) 1.8－2.3 日 (東京春季太陽光換算 7.4－9.4 日) (滅菌自然水、pH7.3、25℃、31.84 W/m ² 、300－400 nm)		
pKa	8.92 (20℃)		

Ⅱ－１．安全性評価

許容一日摂取量（ADI）	0.028 mg/kg 体重/日
食品安全委員会は、令和５年１１月１日付けで、イソチアニルの ADI を 0.028 mg/kg 体重/日と設定する食品健康影響評価の結果を農林水産省に通知した。 なお、この値は各試験で得られた無毒性量のうち最小値 2.83 mg/kg 体重/日を安全係数 100 で除して設定された。	

Ⅱ－２．水質汚濁に係る登録基準値

登録基準値	0.074 mg/L
以下の算出式により登録基準値を算出した。¹⁾ $0.028 \text{ (mg/kg 体重/日)} \times 53.3 \text{ (kg)} \times 0.1 \text{ / } 2 \text{ (L /人/日)} = 0.07462 \dots \text{ (mg/L)}$ ADI 体重 10 %配分 飲料水摂取量	

¹⁾ 登録基準値は、体重を 53.3kg、飲用水を 1 日 2L、有効数字は 2 桁（ADI の有効数字桁数）とし、3 桁目を切り捨てて算出した。

<参考> 水質に関する基準値等

(旧)水質汚濁に係る農薬登録保留基準 ¹⁾	なし
水質要監視項目 ²⁾	なし
水質管理目標設定項目 ³⁾	なし
ゴルフ場指導指針 ⁴⁾	なし
WHO 飲料水水質ガイドライン ⁵⁾	なし

¹⁾ 平成 17 年 8 月 3 日改正前の「農薬取締法第 3 条第 1 項第 4 号から第 7 号までに掲げる場合に該当するかどうかの基準を定める等の件」（昭和 46 年 3 月 2 日農林省告示 346 号）第 4 号に基づき設定された基準値。

²⁾ 水質汚濁に係る要監視項目として、直ちに環境基準とはせず、引き続き知見の集積に努めるべきとされた物質に係る指針値。

³⁾ 水道法に基づく水質基準とするには至らないが、水道水質管理上留意すべき項目として設定された対象農薬に係る目標値。

⁴⁾ 「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止及び水域の生活環境動植物の被害防止に係る指導指針について」（令和 2 年 3 月 27 日付け環水大土発第 2003271 号環境省水・大気環境局長通知）において設定された水濁指針値。

⁵⁾ Guidelines for drinking-water quality, fourth edition

Ⅲ. 水質汚濁予測濃度（水濁 PEC）

1. 製剤の種類及び適用農作物等

再評価に伴い提出された申請資料によれば、本農薬は製剤として粒剤及び水和剤があり、適用農作物等は稲及び野菜がある。

2. 水濁 PEC の算出

（1）－ 1 水田使用時の水濁 PEC（第 1 段階）

水田使用時において、PEC が最も高くなる使用方法（下表左欄）について、第 1 段階の PEC を算出する。算出に当たっては、農薬取締法テストガイドラインに準拠して下表右欄のパラメーターを用いた。

PEC 算出に関する使用方法		各パラメーターの値	
適用農作物等	稲	I ：単回・単位面積当たりの有効成分量 （有効成分 g /ha） （左欄の最大使用量に、有効成分濃度を乗じた上で、単位を調整した値）	300
剤 型	3.0%粒剤	N_{app} ：総使用回数（回）	3
当該剤の単回・単位面積当たり最大使用量	1kg/10a	A_p ：農薬使用面積（ha）	50
地上防除/航空防除の別	地上防除		
使用方法	①育苗箱散布 ②湛水散布		
使用回数	① 1 回 ② 2 回		

(1) - 2 非水田使用時の水濁 PEC (第1段階)

非水田使用時において、PEC が最も高くなる使用方法 (下表左欄) について、第1段階の PEC を算出する。算出に当たっては、農薬取締法テストガイドラインに準拠して下表右欄のパラメーターを用いた。

PEC 算出に関する使用方法		各パラメーターの値	
適用農作物等	てんさい	I : 単回・単位面積当たりの有効成分量 (有効成分 g /ha) (左欄の最大使用量に、有効成分濃度を乗じた上で、単位を調整した値)	23
剤 型	18.3%水和剤	N_{app} : 総使用回数 (回)	3
当該剤の単回・単位面積当たり最大使用量	12.5 mL/10a [※] (ペーパーポット1冊当たり400倍希釈した薬液を1L使用)	D_{river} : 河川ドリフト率 (%)	—
		Z_{river} : 河川ドリフト面積 (ha)	—
地上防除/航空防除の別	地上防除	R_u : 畑地からの農薬流出率 (%)	0.02
使用方法	灌注	A_p : 農薬使用面積 (ha)	37.5
使用回数	3回	F_u : 施用方法による農薬流出補正係数	0.1

※てんさいの栽植密度 7,000 本/10a、ペーパーポット 1 冊当たり 1,400 本を用いて算出

(1) - 3 水濁 PEC 算出結果

使用場面	水濁 PEC (mg/L)
水田使用時 (第1段階)	0.01198 …
非水田使用時 (第1段階)	0.000000051…
うち地表流出寄与分	0.000000051…
うち河川ドリフト寄与分	0
合 計 ¹⁾	0.01198 … ÷ <u>0.012(mg/L)</u>

¹⁾ 水濁 PEC の値は有効数字 2 桁とし、3 桁目を四捨五入して算出した。

IV. 総 合 評 価

水濁 PEC は 0.012 (mg/L) であり、登録基準値 0.074 (mg/L) を超えないことを確認した。

(参考) 食品経路からの農薬理論最大摂取量と対 ADI 比

農薬理論最大一日摂取量 (mg/人/日)	対 ADI 比 (%)
0.0555	3.7

出典：平成 21 年 9 月 14 日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会報告について

<検討経緯>

平成21年 7 月 17 日 中央環境審議会土壌農薬部会農薬小委員会（第 16 回）

令和 5 年12月 11 日 中央環境審議会水環境・土壌農薬部会農薬小委員会（第 90 回）